

那珂川市図書館

オススメの1冊

『いのちを刻む』

木下 晋／著 城島 徹／編著 藤原書店 一般書【723.1 キノ】

モノトーンの世界に光と影、色までも表現する画家がいます。10Bから10Hまで、HBとFを含めた22段階の濃さの鉛筆を使い分けて描く鉛筆画家、木下晋です。彫刻や油絵を経て、オリジナリティを探し求めた結果たどり着いたのが鉛筆画だったそうです。

著者は幼い頃、2歳下の弟が餓死するという悲しい体験をします。生きていくのに必死だった戦後、家庭環境にも恵まれず、貧しく不遇な幼少時代を過ごしました。

自分の絵には不穏な印象があるから絵本に向かない、と著者は思っていたそうですが、これまでに3冊の絵本を手がけています。最初の一冊が『ハルばあちゃんの手』(※)です。漁村に生まれたハルばあちゃんという女性の人生を描いた作品で、児童文学作家の山中恒さんが文を書き、著者が絵を描いています。

私は見開きいっぱい描かれた鉛筆画の迫力に魅了され、白黒なのになぜこんなにも登場人物の「生」が感じられるのだろうとずっと思っていました。それは著者が人間の内面を見つめ、魂に真正面からぶつかり取り組んでいたからなのだとすることが、この自伝を読んで理解できたように思います。ぜひ、絵本と一緒に読んでみてください。

(※)『ハルばあちゃんの手』山中 恒／文 福音館書店【Eキノ】

那珂川市図書館司書 (ひ)